2017 年 10 月 30 日 ・

雨で思い出すのは。。。「アカシアの雨がやむとき」,西田佐知子さんが歌っていました。昭和 35 年(1960)リリース。

『アカシアの雨がやむとき』
作詞：水木かおる 作曲：藤原秀行

アカシアの雨にうたれて
このまま死んでしまいたい
夜が明ける 日がのぼる
朝の光りのその中で
冷たくなったわたしを見つけて
あの人は
涙を流してくれるでしょうか

アカシアの雨に泣いてる
切ない胸はわかるまい
思い出のペンダント
白い真珠のこの肌で
淋しく今日も暖めてるのに
あの人は
冷たい眼をして何処かへ消えた

アカシアの雨が止む時
青空さして鳩がとぶ
むらさきの羽の色
それはベンチの片隅で
冷たくなった私のぬけがら
あの人を
さがして遥かに 飛び立つ影よ

2017 年 10 月 28 日 ・

水曜日に有楽町を通って銀座に行きました。あいにくの雨でした。有楽町で雨といえば、「有楽町で逢いましょう」。昭和 32 年(1957)に発表された歌謡曲で、フランク永井さんがあの独特の低音で歌っていました。有楽町そごうのキャンペーンソングとしても使用されたそうです。

『有楽町で逢いましょう』
作詞：佐伯孝夫　作曲：吉田正

（一）
あなたを待てば　雨が降る
濡れて来ぬかと　気にかかる
ああ　ビルのほとりの　ティー・ルーム
雨も愛しや　唄ってる
甘いブルース　あなたと私の合言葉
「有楽町で逢いましょう」

（二）
心に沁みる　雨の唄
駅のホームも　濡れたろう
ああ　小窓にけむる　デパートよ
今日の映画は　ロードショウ
かわす囁き　あなたと私の合言葉
「有楽町で逢いましょう」

（三）
悲しい宵は　悲しいよに
燃えるやさしい　街灯り
ああ　命をかけた　恋の花
咲いておくれよ　いつまでも
いついつ迄も　あなたと私の合言葉
「有楽町で逢いましょう」

2017 年 10 月 26 日 ・

先週、二人目の孫(女の子)が生まれました。お陰様で母子ともに健です。「こんにちは赤ちゃん」は、昭和 38 年(1963)にリリースされた歌謡曲で、梓みちよさんが歌っていました。そのうち、「ママ」を「グランパ」に変えて歌ってやりたいと思います。元々、永さんが、中村八大の第一子生誕に際して「パパの心情」を歌詞にしたものだそうですから、グランパでも悪くないかも。

『こんにちは赤ちゃん』
作詞：永六輔、作曲：中村八大

こんにちは　赤ちゃん　あなたの笑顔
こんにちは　赤ちゃん　あなたの泣き声
そのちいさな手　つぶらな瞳
はじめまして　わたしがママよ

こんにちは　赤ちゃん　あなたの生命
こんにちは　赤ちゃん　あなたの未来に
このしあわせが　パパの希望よ
はじめまして　わたしがママよ
ふたりだけの　愛のしるし
すこやかに美しく　育てと祈る

こんにちは　赤ちゃん　お願いがあるの
こんにちは　赤ちゃん　ときどきはパパと
ホラ　ふたりだけの　静かな夜を
つくってほしいの　おやすみなさい
おねがい赤ちゃん　おやすみ赤ちゃん
わたしがママよ

2017 年 10 月 24 日 ・

富田常雄の恋愛小説『ここに幸あり』が松竹で映画化され、主題歌として昭和 31 年（1956）３月に発表されたのがこの曲で、結婚式披露宴の定番となったようです。但し、2 番を除いて 1 番と 3 番がよく歌われたということです(参考: 二木紘三のうた物語)

『ここに幸あり』
作詩:高橋鞠太郎　作曲:飯田三郎

１　嵐も吹けば　雨も降る
　女の道よ　なぜ険し
　君を頼りに　私は生きる
　ここに幸あり　青い空

２　誰にも言えぬ　爪のあと
　心にうけた　恋の鳥
　ないてのがれて　さまよい行けば
　夜の巷の　風かなし

３　命のかぎり　呼びかける
　こだまの果てに　待つは誰
　君によりそい　明るく仰ぐ
　ここに幸あり　白い雲

2017 年 10 月 21 日 ・

「赤い靴」の「女の子」は実在の「佐野きみ」という少女です。母親のかよは離婚していましたが、再婚して、夫とともに札幌の開拓団に参加することになりました。しかし、幼い子を連れて過酷な環境に連れて行くことが憚られ、定説によれば、宣教師ヒュエット夫妻に養女として託すことにしたということです。その後、かよと再婚した夫との間に生まれた娘の岡そのが赤い靴の少女が自分の姉であることを知り、少女のその後の行方について調べたところ、実は「きみ」は預けられた際、結核に罹っていて渡米することができず、麻布の「永坂孤女院」に預けられ、母親に会うこともできず、9 歳で亡くなっていたことが分かった、ということでした。横浜の山下公園に少女の像があるそうですね。

『赤い靴』
作詞: 野口雨情 作曲: 本居長世
大正 11 年(1922)

1. 赤い靴（くつ） はいてた 女の子
異人（いじん）さんに つれられて
行っちゃった

2. 横浜の 埠頭（はとば）から 汽船（ふね）
に乗って 異人さんに つれられて
行っちゃった

3. 今では 青い目に なっちゃって
異人さんの お国に いるんだろう

4. 赤い靴 見るたび 考える
異人さんに 逢（あ）うたび 考える

2017 年 10 月 18 日 ・

「星の世界」の原曲は器楽曲としてチャールズ・コンヴァースが作曲した「エリー」（Erie、1868 年=明治元年）という曲だそうです。後にウィリアム・ボルコムという音楽家がスクリーヴェンの『What a friend we have in Jesus』(1855)の詞に合うように編曲しました。日本では明治 43 年（1910）に文部省唱歌、杉谷代水作詞『星の界（よ）』として紹介され、その後、川路柳虹の作詞による『星の世界』として今日まで伝えられています。『讃美歌』312 番、『カトリック聖歌集』672 番の「いつくしみ深き」も同じメロディーで、スクリーヴェンの詞に沿って訳されています。

『星の界（よ）』
作詞：杉谷代水 作曲:コンヴァース

月なきみ空に　きらめく光
嗚呼その星影　希望のすがた
人智は果てなし　無窮(むきゅう)の遠(おち)に
いざその星影　きわめも行かん

雲なきみ空に　横とう光
嗚呼洋々たる　銀河の流れ
仰ぎて眺むる　万里のあなた
いざ棹させよや　窮理の船に

『星の世界』
作詞:.川路柳虹　作曲:コンヴァース作曲

かがやく夜空の　星の光よ
まばたく数多(あまた)の　遠い世界よ
ふけゆく秋の夜　すみわたる空
のぞめば不思議な　星の世界よ

きらめく光は　玉か黄金(こがね)か
宇宙の広さを　しみじみ思う
やさしい光に　まばたく星座
のぞめば不思議な　星の世界よ

『いつくしみふかき』
讃美歌 312 番　カトリック聖歌 672 番

いつくしみふかき　ともなるイエスは
つみ　とが　うれいを　とりさりたもう
こころのなげきを　つつまず　のべて
などかは　おろさぬ　おえる　おもにを

いつくしみふかき　ともなるイエスは
われらのよわきを　しりて　あわれむ

なやみ　かなしみに　しずめるときも
いのりに　こたえて　なぐさめたまわん

いつくしみふかき　ともなるイエスは
かわらぬ　あいもて　みちびきたもう
よの　とも　われらを　すてさるときも
いのりに　こたえて　いたわりたまわん

原曲の歌詞(スクリーヴェン)

What a Friend we have in Jesus,
all our sins and griefs to bear!
What a privilege to carry
everything to God in prayer!

O what peace we often forfeit,
O what needless pain we bear,
All because we do not carry
everything to God in prayer.

Have we trials and temptations?
Is there trouble anywhere?
We should never be discouraged;
take it to the Lord in prayer.

Can we find a friend so faithful
who will all our sorrows share?
Jesus knows our every weakness;
take it to the Lord in prayer

2017 年 10 月 16 日 ・

「出た出た月が」と言えば次は「月が出た出た」。オリジナルは、三井田川炭鉱の女性労働者が歌っていた『伊田場打選炭唄』だということですが、後に編曲され、昭和 7 年(1932)に初めてレコード化されました。少年の頃、町内会の盆踊りと重なって思い出します。

『炭坑節』
日本伝統歌

月が出た出た　月が出た（ヨイヨイ）
三池炭坑の　上に出た
あまり煙突が　高いので
さぞやお月さん　けむたかろ（サノヨイヨイ）

あなたがその気で　云うのなら（ヨイヨイ）
思い切ります　別れます
もとの娘の　十八に
返してくれたら　別れます（サノヨイヨイ）

一山　二山　三山　越え（ヨイヨイ）
奥に咲いたる　八重つばき
なんぼ色よく　咲いたとて
サマちゃんが通わにゃ　仇の花（サノヨイヨイ）

晴れて添う日が　来るまでは（ヨイヨイ）
心一つ　身は二つ
離れ離れの　切なさに
夢でサマちゃんと　語りたい（サノヨイヨイ）

2017 年 10 月 14 日 ・

「出た出た月が」の「月」は、明治 43 年(1910)に『尋常小学読本唱歌』に発表された文部省唱歌です。

『月』
作詞者・作曲者不詳 (文部省唱歌)

出た出た　月が
まるいまるい　まんまるい
盆のような　月が

隠れた　雲に
黒い黒い　真っ黒い
墨（すみ）のような　雲に

また出た　月が
まるいまるい　まんまるい
盆のような　月が

2017 年 10 月 12 日 ・
「虫のこえ」。明治 43 年(1910)『尋常小学読本唱歌』初出。平成 19 年(2007）に「日本の歌百選」に選ばれました。

『虫のこえ』
作詞作曲者不詳、文部省唱歌

１.
あれ松虫が、鳴いている
ちんちろちんちろ、ちんちろりん
あれ鈴虫も、鳴きだした
りんりんりんりん、りいんりん
秋の夜長(よなが)を、鳴き通す
ああおもしろい、虫のこえ

2.
きりきりきりきり、こおろぎや
がちゃがちゃがちゃがちゃ、くつわ虫
あとから馬おい、おいついて
ちょんちょんちょんちょん、すいっちょん
秋の夜長を、鳴き通す
ああおもしろい、虫のこえ

2017 年 10 月 10 日 ・

「里の秋」。1 番を口ずさむと、色づいた秋の小山とその裾にひっそりと建つ藁葺き屋根の農家が目に浮かびます。覚えていたのは 1 番だけだったので、お母さんと子供(女の子でしょうね)だけしか出てこなくて、お父さんはどこに行ってしまったのかと思いましたが、2 番、3 番を見ると、これは復員して来るお父さんを思う歌なんですね。

昭和 20 年(1945)8月 15 日の敗戦と共に、南方や大陸各地から軍人、民間人が続々と日本に引き揚げてきました。彼らは、多かれ少なかれ心や体に傷を負っていました。
同年暮れ、NHKは、そうした復員兵や引き揚げ者たちを励ます特別ラジオ番組を企画し、その中で流す歌の制作を作曲家の海沼実に依頼しました。海沼は、『星月夜』という童謡の作詞者の斉藤に依頼し、同詞の 1 番、2 番はそのままとし、軍国主義的な内容だった 3 番、4 番を急遽変更して新しい 3 番を作詞してもらったということです。放送直後から莫大な人気を集めたそうです。
(「二木紘三のうた物語」を参考にしました。)

『里の秋』
作詞：斎藤　信夫　作曲：海沼実

静かな静かな　里の秋
お背戸に木の実の　落ちる夜は
ああ　母さんとただ二人
栗の実　煮てます　いろりばた

明るい明るい　星の空
鳴き鳴き夜鴨（よがも）の　渡る夜は

ああ　父さんのあの笑顔
栗の実　食べては　思い出す

さよならさよなら　椰子（やし）の島
お舟にゆられて　帰られる
ああ　父さんよ御無事（ごぶじ）でと
今夜も　母さんと　祈ります

2017 年 10 月 8 日 ・

「小さい秋見つけた」。作詞者サトウハチローが住んでいた東京都文京区弥生の自宅の庭のはぜの木が紅葉する情景を見たのが作詞のきっかけとなったそうです。昭和 30 年(1955)に NHK の特別番組『秋の祭典』の楽曲の 1 つとして作曲され、昭和 37 年(1962)にはボニージャックスの歌で『第 4 回日本レコード大賞』童謡賞を受賞しました。

『ちいさい秋みつけた』
サトウハチロー作詞・中田喜直作曲

誰かさんが　誰かさんが　誰かさんが　みつけた
ちいさい秋　ちいさい秋　ちいさゅい秋　みつけた
めかくし鬼さん　手のなる方へ
すましたお耳に　かすかにしみた
よんでる口笛　もずの声
ちいさい秋　ちいさい秋　ちいさい秋　みつけた

誰かさんが　誰かさんが　誰かさんが　みつけた
ちいさい秋　ちいさい秋　ちいさい秋　みつけた
お部屋は北向き　くもりのガラス
うつろな目の色　とかしたミルク
わずかなすきから　秋の風
ちいさい秋　ちいさい秋　ちいさい秋　みつけた

誰かさんが　誰かさんが　誰かさんが　みつけた
ちいさい秋　ちいさい秋　ちいさい秋　みつけた
むかしの　むかしの　風見の鳥の
ぼやけたとさかに　はぜの葉ひとつ
はぜの葉あかくて　入日色
ちいさい秋　ちいさい秋　ちいさい秋　みつけた

2017 年 10 月 6 日 ・

「紅葉（もみじ）」は、明治 44 年(1911）に「尋常小学校唱歌(二)」上で発表されました。「紅葉（もみじ）」の他にも「故郷（ふるさと）」、「春が来た」、「春の小川」、「朧月夜（おぼろづきよ）」も高野・岡野コンビです。

『紅葉　もみじ』
作詞：高野辰之、作曲：岡野貞一

秋の夕日に照る山もみじ
濃いも薄いも数ある中に
松をいろどる楓（かえで）や蔦（つた）は
山のふもとの裾模様（すそもよう）

渓（たに）の流に散り浮くもみじ
波にゆられて　はなれて寄って
赤や黄色の色さまざまに
水の上にも織る錦（にしき）

2017 年 10 月 4 日 ・

秋になりました。真っ赤な秋は昭和 38 年(1963)
NHK の「たのしいうた」で紹介され、更に 2 年後にボニー・ジャックスのコーラスで「みんなのうた」で再放送されて広く知られるようになりました。

『真っ赤な秋』
作詞：薩摩　忠　作曲：小林　秀雄

真っ赤だな　真っ赤だな
つたの葉っぱも真っ赤だな
もみじの葉っぱも真っ赤だな
沈む夕陽に照らされて
真っ赤なほっぺたの君と僕
真っ赤な秋に囲まれている

真っ赤だな　真っ赤だな
烏瓜って真っ赤だな
トンボの背中も真っ赤だな
夕焼け雲を指差して
真っ赤なほっぺたの君と僕
真っ赤な秋に呼びかけている

真っ赤だな　真っ赤だな
彼岸花って真っ赤だな
遠くの焚き火も真っ赤だな
お宮の鳥居をくぐりぬけ
真っ赤なほっぺたの君と僕
真っ赤な秋をたずねてまわる